

平成31年緑化推進運動功労者

内閣総理大臣表彰受賞者

[個人]

たしろ としお
田代 俊夫

(栃木県塩谷郡塩谷町)

いわた ひろし
岩田 洋

(埼玉県秩父郡長瀬町)

こうろき よしお
興梠 幸男

(宮崎県西臼杵郡高千穂町)

[団体]

しべちやちやうりつなかちゃんべつしょうちゆうがっこう
標茶町立中茶安別小中学校

(北海道川上郡標茶町)

あおもりけんりつかしわぎのうぎようこうとうがっこう
青森県立柏木農業高等学校

(青森県平川市)

しんちちやうりつこまがみねしょうがっこう
新地町立駒ヶ嶺小学校

(福島県相馬郡新地町)

ひがしやまとしさやまりよくちぞうきばやし かい
東大和市狭山緑地雑木林の会

(東京都東大和市)

かぶしきがいしゃ
株式会社ロック・フィールド 静岡ファクトリー

(静岡県磐田市)

なかぎよう はな かい
中京・花とみどりの会

(京都府京都市)

はな
花いっぱいさあくる

(京都府綴喜郡宇治田原町)

とくていひえいりかつどうほうじんにしちゆうごくさんちしぜんしけんきゅうかい
特定非営利活動法人西中国山地自然史研究会

(広島県山県郡北広島町)

とくていひえいりかつどうほうじんのりまつきんざんがわ かい
特定非営利活動法人則松金山川コスモス会

(福岡県北九州市)

サントリービール株式会社 九州熊本工場

(熊本県上益城郡嘉島町)

たしる としお
田代 俊夫

栃木県塩谷郡塩谷町

<功績の概要>

同氏は、昭和 23 年に教諭として奉職して以来、平成元年に退職するまでの 41 年間という長きにわたり、理科教育の発展及び学校環境緑化活動に尽力した。

特に学校緑化について、同氏の功績は大きく、昭和 57 年の全国植樹祭開催に当たり、塩谷地区内の小・中学校での緑の少年団の設立及びその後の活動促進に尽力した。平成 16 年からは、同地区の学校環境緑化コンクールの審査に協力し、その助言により地区内の学校が全国コンクールで数多く優秀な評価を得るなど、学識経験者として、環境緑化の取組校の更なる拡大や活動継続に尽力している。

また、植物の生態にも造詣が深く、退職後は博物館の嘱託員として県内の植物調査に関わり研究報告書を執筆したほか、同職から退いた後も「栃木県シダの会」を立ち上げ、後進の調査員の育成にも取り組んでいる。国土交通省や県内自治体の調査等にも積極的に協力しており、近年では、「レッドデータブックとちぎ 2018」の執筆にも協力している。

自然保護関係のボランティア団体活動にも積極的であり、平成 15 年に発足した「うじいえ自然に親しむ会」では団体の中核として、会の運営や絶滅危惧種の保護、野外体験活動等の指導に取り組む等その知見を活かし活動の拡大に尽力するなど、植物の保護活動の側面からも緑化推進に貢献しており、90 歳となった現在も活発に活動するなど、その功績は多大なものである。

いわた ひろし
岩田 洋

埼玉県秩父郡長瀬町

<功績の概要>

同氏は、36年間の教員生活の中で森林・林業に関わる人材を育成してきた。また、旧文部省教科書「林業機械」及び「林業土木」の編纂にも携わり、林業教育に幅広く貢献した。

平成4年からは森林インストラクターとして「木を植えることは気(心)を植えること」をモットーに活動している。その活動は多岐に渡り、全国森林インストラクター会会長として森林インストラクターの社会的な知名度向上に取り組むほか、県内各地で「森林教室」や「自然観察会」を実施し、森林環境教育活動の普及にも努めてきた。また、森林インストラクターの活動フィールドとなる森林を2箇所設置し、地元小学生による植樹活動の支援や会員による森林整備活動を行うとともに、後進の育成にも尽力している。

さらに同氏は、緑化や森づくりに関する有識者として様々な森林に携わってきた。平成21年に設置された長瀬町の宝登山における「四季の丘」植栽計画策定委員会では、委員長として「山頂には花木を、主要な木にはモミジを植え、四季を味わえる山に」という方針を打ち立て、現在では、山頂のロウバイ園が観光名所となっているほか、企業・団体による森づくり活動の場として、10年以上にわたって活用されている。その他にも、奥山地域や都市部の平地林において、保全活動に携わるほか、各種イベントの開催により地域振興にも貢献している。

こうろき よしお
興 栢 幸 男

宮崎県西臼杵郡高千穂町

＜功績の概要＞

同氏は、14年間の長きにわたり、所有する山林を森林環境教育の場として解放し、多様な植生の保護や環境保全の重要性などを訴え続けている。

平成16年に、地域の有志を中心に、「山村振興と森林理想郷を目指して、模範的な森林化社会を実現する」ことを目標として高千穂森の会を設立し、56ha(スギ、ヒノキ:20ha、広葉樹:30ha)の山林の管理・保全、希少植生の保護を実施し、災害に強く豊かな水源の森に整備した。この美しく整備された森林は、訪れた人を優しく包み込む癒しの空間となっており、毎年、子供から大人まで県内外の個人や団体約900人を受け入れ、希少植物の鑑賞会、植樹や間伐などの森林整備、草木染体験やキノコ狩り体験など、数多くの森林環境教育や都市部との交流活動を通じて、森林のすばらしさや森林の持つ多様な機能とその保存の大切さを広く訴えかけている。

同氏の活動は高く評価され、「森の名手・名人100人」に選ばれたほか、地域環境保全功労者表彰(環境大臣)等数々の表彰を受けている。

このように、同氏は、人と自然の共生する森づくりを長年にわたり実践し、現在も森林環境教育を通じた「自然とのつながり～人とのつながりを大切にする心」の教育に尽力している。

[団 体]

しべちやちようりつなかちゃんべつしょうちゅうがっこう
標茶町立中茶安別小中学校

所 在 地 北海道川上郡標茶町

代 表 者 校長 とみた かずゆき
富田 和幸

＜功績の概要＞

同校は、開校間もない昭和6年から、国有未開地においてカラマツなどの植樹活動に取り組み、昭和13年に国の払い下げを受けたことを契機に学校林整備に本格的に取り組んでおり、以来、世代をまたいで活動は受け継がれ、長きにわたり地域一体となった活動を展開している。

近年では、植栽した樹木が伐期を迎え、平成22年にカラマツ林の一部を伐採し、新たな散策路を整備し、平成23年には、PTAや地域の青年部や団体等の協力で当該伐採跡地に大規模な植樹を実施するとともに、学校林活動の拠点施設として、ツリーハウスを建造した。このツリーハウスを中心に、総合的な学習の時間において、学校林を活用した森林環境教育が実践されている。

平成26年からは、学年別に課題を設定し、自ら学び、考え、判断する中で問題を解決する資質や能力が育つよう、各学年の発達段階に応じた計画を立てたことにより、思考力、表現力の向上が見られるなどの成果が得られている。

このほか、同校は、緑の少年団活動等を通じて関係団体が主催する各種交流事業に参加するなど、地域活動のみならず、積極的に外部との交流を行っている。

今後の活動に対しても、地域が寄せる期待は大きく、学校林を活用した環境教育の推進が、強固な地域との結びつきを形成している。

[団 体]

あおもりけんりつかしわぎのうぎょうこうとうがっこう
青森県立柏木農業高等学校

所 在 地 青森県平川市
代 表 者 校長 たかの こうき 高野 浩輝

< 功績の概要 >

同校の環境緑化活動は、校舎移転後の昭和54年頃から始まり、「大石武学流庭園」や「洋風庭園」が造成され、昭和59年の創立60周年記念事業で「柏農の森」づくり(樹種45種類530本植樹)が行われ、自然豊かな農業高校としてその位置を確立してきた。

平成7年には創立70周年記念事業として「恵みの森」づくり(都道府県木36種類180本、青森県市町村木24種類120本植樹)が行われ、緑化活動が推進された。

平成27年には創立90周年の記念事業の一環として、同校生徒や地域住民が四季を通じて樹木や花の香りを楽しめる空間を創造するとともに、環境教育の充実を図るため、「国蝶オオムラサキが舞う香りの森づくり」「薬用樹木園づくり」「日本一のハンカチツリー並木づくり」として全校生徒が約1.2haの校内遊休地7区画に約900樹を植樹している。

校外活動としては、花壇の植栽といった地域環境の美化活動の推進をはじめ、地元幼稚園等を招いての植樹体験活動や他団体等と連携した耕作放棄地へのハンカチツリーの植栽活動、白神山地周辺の生態系保護など、地域の魅力を再発見するとともに、校内外を問わず、生徒と教員が一丸となり、特色ある環境緑化活動を推進している。

しんちちょうりつこまがみねしょうがっこう
新地町立駒ヶ嶺小学校

所 在 地 福島県相馬郡新地町

代 表 者 校長 えんどう かずひろ
遠藤 和宏

〈功績の概要〉

同校では、昭和 51 年に結成された緑の少年団が中心となって、「花いっぱい運動」として花壇やプランターの花づくりといった校内や地域の緑化活動等に取り組んでいる。

平成 13 年の校舎の新築移転後は、校舎と周辺空間とのバランスを考えつつ、地域住民の癒しの場となるような校内の緑化環境整備に努めるとともに、校内だけでなく、地域の方々と共同で通学路沿いなどの花壇活動にも取り組み、年間を通じて様々な花を楽しめる空間づくりに貢献している。

また、同校は東日本大震災に伴う原子力発電所の事故により、一時野外活動が自粛となり、緑の少年団の活動も大きく制限されたが、このような中でも花いっぱいの学びの環境づくりを通して、児童の安心感や優しさを取り戻すため、徐々に緑化活動を再開した。

さらに、「花いっぱい運動」について積極的に発信し、花を育てる活動を通じて地域が元気を取り戻すことを願い、児童が育てたプランターの花をデイサービスセンターや郵便局、さらに避難者へプレゼントする活動を展開するなど、地域の方々と協力し、緑化環境を一層充実させることで、地域の復興に大きく貢献している。

[団 体]

ひがしやまとしさをまりよくちぞうきばやし かい
東大和市狭山緑地雑木林の会

所 在 地 東京都東大和市

代 表 者 会長 やまもと なおゆき
山本 尚幸

＜功績の概要＞

同団体は、平成9年の設立以降、20年以上にわたり、ボランティアとして約14.6haの「東大和市立狭山緑地」の保全活動を続けている。

同緑地は、かつては人の手が入る里山であったが、農業の近代化に伴い人の手が入らなくなり放置されていたところ、人にも生き物にも優しい里山の雑木林を次世代に引き継ごうと、市が募集した市民ボランティアとして同団体は発足した。毎週末に、間伐、下草刈りのほか、切った木材の有効活用としての炭焼き、竹林の整備、固有種の外来生物からの保護等の活動を実施している。ゾーニングをして整備された同緑地は、同団体の活動により、多様性のある環境が形成され、人にも生き物にも心地よい、暖かくまた懐かしい空間となっており、休日は市外からも多くの人々が訪れる憩いの場となっている。

また、地域住民への環境意識の啓発活動として、同団体は、公民館の公開講座や市内外の学校への出前授業、散策交流会の開催等の地道な活動に努め、一般市民の環境保全意識の高揚にも貢献している。

かぶしきがいしゃ しずおか
株式会社ロック・フィールド 静岡ファクトリー

所在地 静岡県磐田市

代表者 ファクトリーマネージャー かわさき ひろよ
川崎 博世

＜功績の概要＞

同工場は、平成3年5月に竣工、操業開始し、「地球環境を守り豊かな自然を次代に伝えます」の環境宣言に基づき、従業員にも一般市民にも親しまれる自然と調和した工場を目指している。

平成12年の二期工事竣工時には、静岡ファクトリーパークと名付け、風力発電設備やビオトープを設置した。風と水と緑の循環型ファクトリーパークとして、風車から得られる電気エネルギーを利用して工場排水を浄化後、さらに自然の浄化作用を持つビオトープを通しクリーンな水を放流する取組を行っている。ビオトープには多くの水棲動物が生息し、何種類もの水辺の植物が繁茂しており、多くの鳥類が訪れる環境を形成している。

また、工場の一部の建物は天然芝による屋上緑化が行われており、夏季の室内温度上昇を和らげるとともに、優れた緑地景観を生み出している。

平成3年の竣工後に成長のシンボルとして、当時の従業員数と同じ240本の次郎柿を植栽し、最近では、近隣の生産者の方の指導を仰ぐことによって、従来よりも良質な柿を収穫することに成功している。植栽地は、企業内保育室の子どもたちと地元の農家とのふれあいの場にもなっており、様々な交流を通じて、自然との関わり方を吸収できる保育が実践されている。

以上のように、同工場は設立時から地域密着型の工場として緑化の推進に取り組み、現在も「自然の樹形を大切にす」といった考えを基本に、新たな苗木の植栽を計画的に進めるなど景観の維持に取り組んでいる。

[団 体]

なかぎょう はな かい
中京・花とみどりの会

所 在 地 京都府京都市

代 表 者 代表 にしむら いさむ
西村 勇

< 功績の概要 >

同団体は、平成 17 年度に京都市中京区役所が緑の少ない現状を改善するために行った「まちなかの緑化推進事業」の区民参加者として集まったメンバーを中心に、平成 18 年3月に結成されたボランティア団体である。

平成17年度に同事業により整備された中京区役所の屋上庭園の花の植付けや維持管理のほか、まちなかの緑化推進として、御池通、二条駅前の花壇の植替え、巡視作業などのボランティア活動を行い、美しい花壇の維持管理に大きく寄与している。

また、毎年、中京区役所の屋上庭園を活用して、お茶会やお月見などのイベントを開催し、近年では100名以上の来場者を集めるなど、地域住民の交流の場や屋上緑化に触れる機会を提供しており、地域コミュニティの活性化及び緑化推進の意識醸成に貢献している。

さらに、同団体は、同屋上庭園での地域の小学生や幼稚園児、保育園児向けの見学会の開催、小学校で花の植付け講習やグリーンカーテンの設置、介護施設で花の寄せ植えづくりなどのセラピー園芸等を行っており、緑化活動を通して地域の教育及び福祉に大きく貢献している。

[団 体]

はな
花いっぱいさあくる

所在地 京都府綴喜郡宇治田原町

代表者 なかい しのぶ
中井 忍

< 功績の概要 >

同団体は、宇治田原町の玄関口である国道307号の銘城台交差点を色とりどりの四季の花で美しく彩ることで、通行するドライバーや地域の方々の気持ちにやすらぎを与えることを目的とし、平成8年12月に設立された。

設立以来、20年以上にわたり、自分たちを取り巻く環境を自らの手で整え、守ることの大切さを子供たちに伝えたいとの思いで、メンバーが交代で道路路側帯に設置された花壇の手入れや毎日の水やり作業、その周辺の清掃等を継続して実施し、地域の緑化に貢献している。

毎年6月と11月には花壇の花を植え替えており、交通量の多い場所に様々な花を植えることによって、周辺地域においてもゴミのポイ捨てを減少させる効果も生んでいる。

また、町内の中学校のクリーンキャンペーンに参加し、花壇への植え付け等の手伝いに出向き、自分たちを取り巻く環境を自らの手で整え、守ることの大切さも子供たちに伝えるなど、地域住民のコミュニケーションの場としての機能も大切にすることで、作業をするだけでなく心の交流の場としての活動も展開している。これらの活動を通じて多世代間の交流を促進するとともに、美しく保たれた花壇を目にして記憶に焼き付けることで、子供たちにふるさとへの愛着をもってもらえるよう活動を継続している。

[団 体]

とくていひえいりかつどうほうじんにしちゅうごくさんちしぜんしけんきゅうかい
特定非営利活動法人西中国山地自然史研究会

所在地 広島県山県郡北広島町

代表者 理事長 こんどう こうじ
近藤 紘史

< 功績の概要 >

同団体は、貴重な動植物が生育・生息する西中国山地やその里山を中心に、その適正な保全に資するための研究活動や保全活動を長年にわたって実施しており、保全事業のひとつとして、「芸北せどやま再生事業」を展開している。

同事業は、山の持主自身に山の手入れをしてもらい、切った木を「せどやま市場」が買い上げるもので、「せどやま券」という地域通貨で対価を支払い、山で稼いだお金が地域内で循環し地域経済を活性化させる仕組みとなっており、里山の保全と地域経済に大きく貢献している。

また、町事業と連携し、せどやま再生事業で集積された木材の活用先として、重油の燃料費が高騰し、経営を圧迫していた施設の温泉加温用ボイラーを薪ボイラーに更新し、重油に代わり薪を活用することで、木材の有効活用と燃料費の抑制に貢献している。

このほか、地域住民・ボランティアが協働した里山や草原などの生態系及び野鳥、魚類などの希少種保全活動の実施や、地元小学校と連携した自然観察会、一般市民等を対象とした講習会を数多く開催しており、地域住民と連携しながら自然環境の保全活動に尽力している。

[団 体]

とくていひ え いり かつどうほうじんのりまつきんざんがわ かい
特定非営利活動法人則松金山川コスモス会

所在地 福岡県北九州市

代表者 理事長 たなか つねお
田仲 常郎

< 功績の概要 >

金山川は戦時中の石炭の採掘により地盤沈下が進み、天井川となっていた。加えて流域は戦後、急速に都市化が進んだことで流出量が増大し、河川の流下能力不足によりたびたび水害に見舞われていた時代があり、同団体は「洪水のまちから花咲くまちへ」を合い言葉に、住民主導の「まちの再生」を目標に昭和 59 年から活動を始めた。金山川両岸の 3.5km と周辺の休耕田を合わせて約 1.5ha の除草・清掃活動、花植活動、祭りの開催等を行っている。

花植活動においてはチューリップ(29 種、10 万本)、ヒマワリ、コスモス等、四季を彩る多様な花を植えている。さらに、春にはチューリップまつり、秋にはコスモスまつりと年 2 回の花祭りを主催し、現在では八幡西区北部地域を代表する祭りとして市内外から約 2 万人が訪れており、多方面から高い評価を受けている。

また、同団体の花植活動は、「花(を植える)」という誰もが理解しやすく、参加しやすい活動であることから、地域活動に発展し、今では幅広い年齢の人々が参加しており、「まちの再生」と地域住民同士を結びつける「つながりの場」としての役割を担うなど、地域の活性化に大きく寄与している。

[団 体]

かぶしきがいしゃ きゅうしゅうくまもこうじょう
サントリービール株式会社 九州熊本工場

所在地 熊本県上益城郡嘉島町

代表者 工場長 おおした かつみ 大下 勝巳

< 功績の概要 >

同工場は、平成 15 年の竣工以来、地域の自然と調和した『緑の工場』を目指し、工場敷地の半分以上にあたる 20ha の緑地を整備し、除草剤や農薬を使うことなく、地下水保全に配慮した維持管理を継続して実施している。

また、工場外においては、平成 15 年に分収育林契約を締結し、国有林において、「天然水の森 阿蘇」として水源林整備事業を開始した。平成 22 年には、新たに国有林にて森林整備協定を締結、平成 27 年には西原村、益城町及び熊本県林業公社と協定を締結することで、「天然水の森 阿蘇」での森林整備を合計 420ha に拡大し、水源林をより豊かにするために“水と生命(いのち)の未来を守る”森づくりに取り組んでいる。さらに、平成 22 年 10 月からは、「冬水田んぼ」(冬期湛水)を開始し、下流域と上流域とが一体となった水源涵養活動^{かん}を展開している。

あわせて、同工場では工場見学の中で水源涵養活動の紹介をするほか、整備協定森林における自然体験教室、小学校への出張授業からなる環境教育プログラム「水育」を開催するなど普及啓発活動にも力を入れている。

このほか、平成 28 年からは、熊本地震の復興支援事業として、水田の復旧工事や、小学校・仮設住宅に花苗を植えるワークショップを開催するなど、被災地の緑化による復興にも貢献している。